



第130号

三愛学園

令和2年4月27日発行
さんあい広報タスク

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax 048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL san-ai-jidouyougo.org

児童養護施設さんあい 一時保護所 ファミリーホーム三愛茜の里 自立援助ホーム三愛子ひつじ寮



携帯電話の契約

理事長 兼 施設長 高瀬 一使徒



春は携帯電話の契約シーズンです。他の多くの施設がそうであるようにさんあいでも高校受験に合格すると携帯電話を所有することを許可しています。全国的には、中学生の携帯所有率は7割を超えていたと言われています。従って施設で暮らす子にとって携帯を持つことは、長年の憧れであり特別な意味を持ちます。特別な意味とは、今まで施設というルートを通してのみ外の世界と繋がっていましたが、携帯を持つことにより何時でもダイレクトに繋がることが可能になるからです。ある意味、大人として認められたことであり、「一般家庭の子と同じ」になったと感じることもあると思います。さて携帯の契約ですが、一般家庭の子どもであれば、親と携帯ショップに行き問題なく契約することができます。一方親の支援の受けられない施設の子は、保護者として施設長が同席して契約をすることになります。一昔前は、施設の子どもたちは携帯の契約ができませんでしたが、今では通信会社も状況を理解してくれ契約ができるようになりました。しかし身分確認の書類等で担当者が何度も上司と確認しながら進めることでかなりの時間を要します。一つひとつの書類確認を担当者が上司と電話でやり取りをする間、施設長の横でじっと待つ子どもはどんな気持ちでしょうか？自分は本当にスマホを持つことができるのか不安な気持ちかもしれません。あるいは一般家庭の子と違う自分の境遇を思ったりするかもしれません。周りには楽しそうに親子で契約をしている姿があります。そんな3時間以上に及ぶ重々しい書類の確認作業と契約書署名を終え、無事に憧れの最新モデルのスマホを手にできたさんあいの新高校生は、感情すらあまり出しませんが、心なしか顔が硬直しているように見えるのです。施設の子にとって、深い思いが詰まった携帯の契約なのです。

・新型コロナウイルス対策

1年の中で春は一番セレモニーや会議が多いシーズンですが、新型コロナウイルスの影響ですべてが止まっています。施設では、県の非常事態宣言を受けて、不要不急の外出を避け、生活の中でも三密を意識した生活をしています。しばらくの間、面会や学習ボランティア等も停止いたしました。また、例年5月最後の日曜日開催の「さんあい祭」も 今年度は中止いたします。マスクや消毒液は個人や団体の支援もあり、8月ぐらいまでは持ちそうです。今後最悪の事態を想定して準備はしていますが、実際に起こってしまったら混乱は避けられません。でもそれは、施設に限ったことではありません。私たちのできる最善を尽くすのみです。

神様は、人が悪いことをした罰として今回のような事態を引き起こしたと考える人もいます。しかし神様は愛であり、私たちが幸せになることを望んでおられると言っています。この混乱の収束を切に祈っていますが、同時にこの状況下であっても天の恵を子どもたちと感謝する感性を失うことなく過ごして行きたいと願っています。

・自立援助ホーム「三愛子ひつじ寮」の設置

感謝のことば

高校を中退してしまった児童や中学卒業後就業を希望する児童等、児童養護施設の枠組みでは支援の手が届かない社会的養護を必要とする子どもたちのために「三愛子ひつじ寮」は、計画から4年余りの歳月を経て2020年4月1日に開所いたしました。ここまで、ご理解・ご指導くださいました県こども安全課、熊谷児童相談所、県下自立援助ホームのホーム長の皆様、設立の趣旨に賛同され、家電製品や家具等のご支援・ご協力をいただきました公益財団法人山田昇記念財団様、そして、この場所での新たな寮の受け入れに関して、ご理解下さいました近隣住民の方々に、心より感謝申し上げます。(所在地:深谷市西大沼、定員:9名、職員:4名)



名前の由来

社会福祉法人三愛学園の理念の土台である聖書には、群れからはぐれた1匹の子ひつじのために他の99匹をのこして探し出す羊飼いのたとえ話があります。これは、「社会からはぐれた最も弱いものに対するケア」という福祉的な意味に置き換えることができます。新たに開設される「三愛子ひつじ寮」が、社会からはぐれてしまった子やはぐれそうな子たちが安らげる場、自立する場にしたいという思いを込めて命名いたしました。

・社会福祉法人三愛学園 中期事業計画「7か年計画」



法人理念や養育目標を具現化していくには、中・長期の事業計画(戦略)が必須となります。2015年に策定した中期事業計画である「未来に向かって4つの挑戦」は、2019年度に行った評価で、指標となる22項目の具体的な取り組みに対し19項目が達成されたことを確認いたしました。そして今年度(2020年度)から法人設立50周年を迎える2026年度の間の中期事業計画を、「7か年計画」と言う名前で設定することにいたしました。中期のテーマ(大目標)としては、「さらに多くの子どもたちを支援するために、事業の質を向上させ、その規模を拡大してゆく。」といたしました。そしてテーマに沿った事業計画策定の基本姿勢として以下の6つをあげました。

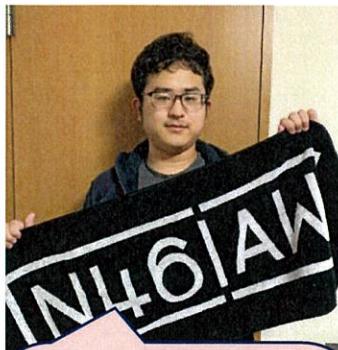
1. 法人として社会に対する役割と貢献を意識する。
2. 創設の理念(三愛主義)と養育目標(思いやりのある子)を重要視する。
3. 自然環境、園舎、職員確保、情報共有、情報発信等 法人の強みを生かす。
4. 働き方改革等の労働環境の変化や労働者意識の変化に対応していく。
5. 持続可能な計画とするために次世代のリーダーの育成と移行を推進する。
6. 入所児童や入所期間の変化、地域分散、高機能化や多機能化等「新しい養育ビジョン」の方向性を意識する。

さらに、このテーマを実現させるために具体的な取り組みを、4つのエリアに分け、37項目の取り組み(目標)を設定いたしました。今回紙面の都合で詳細までご説明できませんが、県下の社会的養護を必要とする児童の数は増加の一途を辿る中、職員と共に養護の質を高め、受け入れ規模を拡大して行きたいと願っています。

2020年度新任職員の紹介

4月よりさんあいの仲間に加えていただきました。自己紹介をさせていただきます。

写真はそれぞれが好きなもの、大切なものと一緒に写しています。よろしくお願ひいたします！



入職してから嬉しかったことは、自分への子どもたちの呼び方が「お兄さん」から「梶原さん」に変わっていったことです。子どもたちのお手本となるような職員を目指していきたいです。 梶原智哉



趣味は漫画を読む事、舞台を観に行く事、絵を描く事です。最近はペンタブレットを使った描画にはまっています。入職してからあった嬉しかった事は、はじめは話し掛けてくれなかった子と、日を重ねるごとに会話をできる回数が増えたことです。 神林真帆



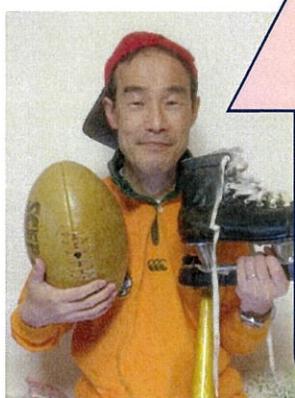
入職してから嬉しかったことは、子どもと一緒にお菓子作りをした際、子どもの分だけ用意したつもりが、コッソリ私の分も作ってくれていたことです。私も子ども達にたくさん優しさを渡せる職員になりたいです。 木之内美涼



入職してから嬉しかったことは、子ども達に、「小暮さんが職員になってくれて良かった」とみんなが言ってくれたことです。これからもそのように言われ続けられるように頑張りたいです！ 小暮亞美



こんにちは！ひのきのお部屋で頑張っています、奈良たけるといいます！入職してから嬉しかったことは自分の行動で笑顔になってくれる子ども達を見れたことです。これからよろしくお願いします。 奈良武治



家では「おとうさん」外では「おじさん」と呼ばれる歳ですが、ここでは子どもたちに「お兄さん」と呼んでもらえることがとてもうれしいです。運動は好きですが、調子に乗ると必ずツケが返ってくるので、そこは齢相応にふるまいたいと思います。 平本実



もみの木の職員になりました山口です。入職して嬉しかったことは、なかなか話せずにいた中学生が食事の支度をバタバタしていたら何も言わずに配膳の手伝いをしてくれたことです。これからよろしくお願いします。 山口紗奈枝

入園・入学おめでとう

今年度は幼稚園 1 名、小学校 1 名、中学校 2 名、高校 4 名がそれぞれ入園・入学しました。

今年は登園・登校する事もなかなか出来ずに、ストレスも溜まりがちですが、これからの園生活、学校生活に期待を込めて、インタビューしました。

幼稚園入園

- ・好きな食べ物は、ゼリーです。
- ・好きな遊びは、お砂遊びです。
- ・大きくなったら、アンパンマンになりたい！

(年少・S君)

小学校入学

- ・小学校で楽しみな事は、休み時間に滑り台で遊ぶことです。
- ・小学校ではお勉強を頑張りたいです。
- ・大きくなったらケーキ屋さんになりたいです！

(小1・Kちゃん)

中学校入学

- Q. 中学校で楽しみな事は何ですか？
A. 友達とのふれあいと休み時間。(Mさん)
A. 部活です。 (Rさん)
- Q. 部活は何をやりたいですか？
A. ソフトボール部。 (Mさん)
A. 陸上部。 (Rさん)
- Q. 中学校での目標は何ですか？
A. 何事もあきらめずに前進する事
部活で活躍する事。 (Mさん)
A. 勉強を頑張る！ (Rさん)
- Q. 将来の夢は何ですか？
A. 美容師になりたい。 (Mさん)
A. 幼稚園の先生になりたい (Rさん)

高校入学

- Q. 高校生活で楽しみな事は何ですか？
A. 文化祭と修学旅行 (Aさん)
A. アルバイト (Mさん)
A. アルバイト (Sさん)
A. 学校行事（特に文化祭） (Oさん)
- Q. 高校での目標はどんな事ですか？
A. 大学に進学できるように勉強する (Aさん)
A. 陰キャデビュー (Mさん)
A. 赤点を取らない！ (Sさん)
A. 沢山挑戦する (Oさん)
- Q. 今、一番大切なものは何ですか？
A. 中学での思い出 (Aさん)
A. アイコン (Mさん)
A. 命 (Sさん)
A. 命 (Oさん)
- Q. 将来の夢は何ですか？
A. 気象予報士 (Aさん)
A. まだ決まっていません (Mさん)
A. 安定した給料の職に就く (Sさん)
A. 心の優しい素敵な大人になりたい (Oさん)

入園・入学を祝う会

今年の祝う会は全員揃って会食する事は出来ませんでしたが、新入所児童、新入園児童、新入学児童のお祝いや新任職員の出し物をした後に、それぞれの居室でお祝いの料理を頂きました。



メニューは新任職員の好きな食べ物です



さんあいの里親支援

子どもが家庭で育つことが出来ない場合のそれに代わるものとして里親家庭があります。さんあいでは現在も里親家庭との交流があり里親さんとの良好な関係を積み上げています。

児童相談所がふさわしいと考えられる里親登録者に声をかけ、里親登録者の気持ちを確認し、希望された場合子どもとの面会外出の交流が始まります。最初は距離を置いたところから眺めるように見ていただき、次に職員を交えて一緒に部屋で遊び、庭で遊び、近くを散歩して、車で近くの公園に行って遊び、お互いが慣れてきたころに職員無しで近くに外出を繰り返し、里親登録者の自宅に外出し、外泊を繰り返し、最後に1ヶ月間の長期外泊をして委託となります。

交流が始まっすぐの子どもは、自分に会いに来てくれる人がいることに喜び、顔を見るとすぐに駆け寄って行って遊びます。面会が繰り返されるうちに意識が芽生え、会いに来てくれることを楽しみに待つようになりますが、里親さんの顔を見ると表情がこわばり自分の部屋にこもってしまったり、大きな声で泣いたりする事もあります。そんな時里親さんは「どうしたのかな？嫌われたかな？」と思い、「私たちはこの子にふさわしくないのでは？」と考えてしまう事もあります。とてもつらい時期です。でも、車に乗って出かけると泣き止みおしゃべりするようになり、帰るころには笑顔が見られます。「だれもが通る道です」とお話をしても一緒に乗り越えていただいている。お互いにとって「ちょうどいい」を見つけながらゆっくりと家族になっていただけるよう支えていきたいと思っています。

(里親支援専門相談員 野田)

緊急一時保護ユニット オリーブ

緊急事態宣言が出され、週末の日課となっていた図書館等の外出に行けず、残念がっている中学生もいますが、交流ホールに設置されたトランポリンや卓球、ピアノと新たな遊びを楽しんでいます。遊びの提供は職員の腕の見せ所でもあり、一工夫することの大切さを実感する毎日です。

また、朝の日課の動物のお世話も行い、動物との触れ合いを通し、癒されている様子の子ども達、犬の散歩をする時は誰がリードを持つか、時には衝突することもありますが、譲り合いも学んでいます。

(オリーブ 柳井)

ファミリーホーム 三愛茜の里

2月下旬の健康診断の際、嘱託医の柳田先生に50枚入りのマスクを1箱頂きました。今も治まることがない新型コロナウィルスの感染拡大の状況下、マスクを大切に使わせていただいています。茜の里でも、地区の見守り対象のお年寄りに、マスクを届けました。

子どもと一緒に暮らす日々、たこ焼きホームパーティーやBBQ、バトミントン大会、また学習等々、楽しく過ごせるように、子どもと一緒に奮闘しています。

尚、今年度は5名が中学生です。10年先がどんな時代か予測はできませんが、今、何をどうしたらいいのか、子どもと一緒に考え行動しています。

「人を尊び・自立する力」を備えられる、真の学びを考え、これからも養育を行っていきます。今後とも、子ども達の成長を温かく見守って下さるようお願い致します。



(茜の里 野口)

白バイが来た！

小学生時代をさんあいで過ごした卒園生が埼玉県警察に入り、昨年交通機動隊として深谷市に配属になりました。その頃を知る職員や卒園生と共に年末に食事会を開き昔を懐かしました。3月、彼は子どもたちのために白バイでさんあいを訪問してくれました。本物の白バイに目を輝かせる子どもたち。小学生からの質問に優しく丁寧に答えてくれているその姿に目を潤ませながら感慨深そうに見つめる職員。この仕事の醍醐味、やりがいを感じさせてくれたRくんに感謝します。（青木義）

茜の里・システム導入

今年度よりシステム導入に伴い本園と茜の里のそれぞれの場所に居ながらお互いの業務日誌をPC上で共有出来る事になりました。茜の里では、育成記録を月でまとめ振り返りや問題解決を行っています。システム化により業務が軽減される事で、養育の質をさらに向上させ子ども達の変化や成長に気付き、自立に向け支援していきたいと思います。（茜の里 石澤）

大学へ行ってみよう！

学習ボランティアさんの通う大学に興味を持った児童の「大学を見てみたい！」の一言から、児童4名で学ボラさんの通う近隣の埼玉工業大学に見学に行かせてもらいました。さんあいの評議員でもある同大学心理学科教授の小野先生に案内して頂きました。大学内には自動運転の車を研究している所や、生命環境化学科で飼育している色々な種類の魚なども見学する事が出来ました。初めて見る物ばかりで子ども達は目を輝かせていました。自分の将来の目標に大学進学という事を選択肢の一つに考えてくれたら嬉しいです。

（村尾）

いつも暖かいご支援ありがとうございます。

*ご寄付は右記の口座にお願い致します。連絡先を入れて下さい。 埼玉りそな 岡部支店 普 0058888

いつもと違う入学式

4/8に小中高の入学式がありました。コロナウィルスの影響で、保護者は1名のみ参加で、検温を行い、マスクを着用のもと、保護者席は間隔を開けて座ったり、来賓の挨拶などは無くなり時間を短縮して、しっかりとした対策が行われていました。そんな中でも自分の名前を呼ばれると、どの子も大きな声で「はい！」と返事ができ、とても立派でした。（山口）

いちょうの広場



じゃがいもの種芋植え

3月の下旬、子どもたちと一緒にじゃがいもの種芋を植えました。午前中は肌寒く雪が舞い天候が不安定でしたが植えるころには天気も回復していました。子どもたちに間隔棒、有機肥料用の大きいカップ、化学肥料用の小さいカップを渡しました。間隔棒を使ってちょうどいいところに種芋を置き肥料をまきました。やっているうちにスピードが上がり、だんだん競うように畑を走っていました。6月頃には大きくて美味しいじゃがいもが沢山採れるといいです。（野田）



グランドの一部整備

子ども達に、より快適に運動する場を提供するために、グランドの奥のバスケットコートとして使っている部分を、コンクリート舗装にしています。これによりバスケットだけでなく、バトミントンやミニサッカー等にも利用できます。この整備事業には丸紅基金様より助成をいただいています。外出制限でストレスが溜まる中、子どもたちにとっては朗報です。この号が届くころには、新しいバスケットコートで子どもたちが遊んでいることでしょう。

（高瀬）

編集後記

4月から心新たに新年度が始まりましたが、昨年度からの新型コロナウィルスの問題で前途多難な年度初めとなりました。先の見えない戦いではありますが、最善を尽くし子ども達の安全安心が守れるよう、職員皆一丸となって一念通天の思いで乗り切っていこうと思います。 There is no rain that won't stop. ☀

（広報タスク一同）